

## 第14章 金融

W23-0081G 許智暎

この章では、途上国の経済発展を、金融の側面から政策、流れに通じて論じている。金融の役割を把握し、金融を手段として利用する政策がどのようなものか。先進国や途上国の間で、その政策がどのような影響もたらしたのかを考える。

### 概要

#### 第1節 金融システムの3つの役割

##### ① 金融仲介機能

金融という現象の本質は、お金を使う人とお金を持っている人の分業である



- ・ 金融市場：資金の需要者と供給者が出会う市場
- ・ 利子率、利回り：金融市場での「価格」
- ・ 金融仲介機関：銀行などの貯金、貸出を行なっている「預金受入金融機関」
- ・ 間接金融：預金受入金融機関を通じた資金の流れ
- ・ 直接金融：株式、社債、証券などの方法を通じた資金の流れ

##### ② 決済機能

支払い方法の発展：物々交易 → 現金流通 → 金融

\*分業が進むと・・・「金融」で決済方式：口座、証書（手形、小切手）など

\*なぜ？・・・安全上の問題や複雑さのため

##### ③ 諸政策の場を提供する役割



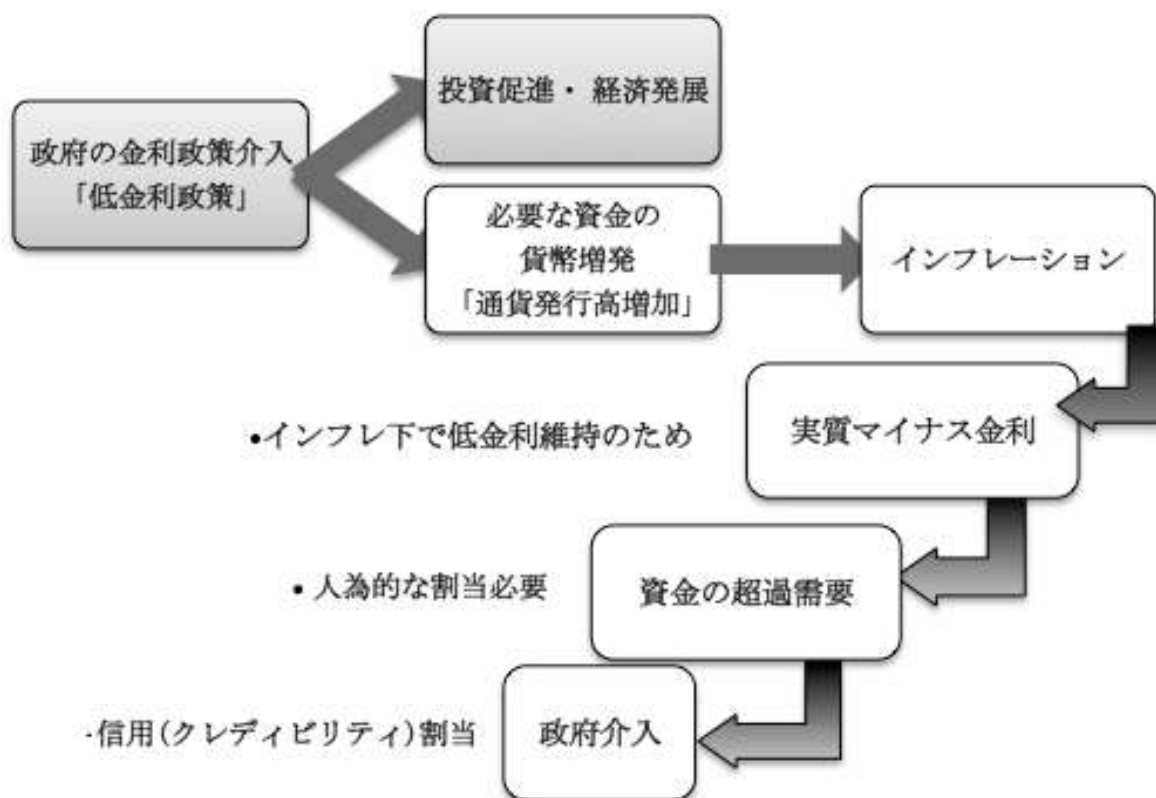
	政策	方法	目的
政府	財政政策	政府支出、増税率変化	国民経済の安定化
	為替政策	他国の貨幣との交換価値の調節	通貨価値の安定化
	産業政策	特定の産業や企業の優待金利	産業、企業の発展

#### 第2節 経済発展と金融システム

##### ① 計画経済への志向とケインジアン的政策

第二次世界大戦後の途上国の経済戦略： 1) 社会主義的計画経済 2) 資本主義的方法

\*ケインジアンジョク発想： 国が経済政策を通じた積極的な経済を望む状態に到達しようとする  
→ 金融市場への政府の介入を正当化



\* 金融抑圧 (financial repression) : 金融市場の発展を抑制する様々な規制をして、政治目的に利用すること

- ② マッキンノン=ショウ仮説と金融自由化政策  
マッキンノン(Mekinnon [1973])とショウ(shaw [1973])  
⇒ 金融仲介機能の発達が経済発展に重要し、金融抑圧を批判する。
- ③ 金融危機の発生  
金融自由化 → 競争による経営破綻 → 金融機関の連鎖的破綻 → 金融危機を引き起こす  
\* システミック・リスク (= システム・リスク)  
\* モラルハザード

### 第3節 経済発展と国際金融

	時期	先進国→途上国	意義
第1期 金融抑圧の時期	第二次世界大戦直後	贈与、借款	「政府と政府間の関係」
第2期 金融自由化の提唱、 結果的には累積債務 危機に帰結	1973年 石油危機	オイルダラー	「銀行を通じて政府や民間への融資」
	1980年代初め	貸出	「途上国の累積債務問題」
	1985年 プラザ合意以降	子会社の設立、 企業合併	「直接投資、民間資金の移動」

第3期	1990年代	生命保険、 信託投資基金など	「証券市場を通じた民間中心の 資金流入、ポートフォリオ投資」
-----	--------	-------------------	-----------------------------------

#### 第4節 教訓—経済理論と経済政策

金融という複雑な現象を、特定の役割に限定して、安易な処方をするのは危険である。

- \* ケインズ理論
- \* 金融深化論

#### 第5節 政府の役割—『東アジアの奇跡』に見る政策金融の評価

世界の銀行が1993年に公表した『東アジアの奇跡』というレポートが注目される。

\* 『東アジアの奇跡』の概要

- ① 政府の市場介入による悪い影響は小さくなかった。
- ② 介入は、主に市場の失敗のことで、多彩で有効に機能している。
- ③ 東アジアにおける政策は、途上国一般に対しては、適用可能な政策ではない。

1) 東アジア諸国の状況

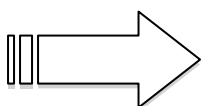
低金利政策 + マクロ経済の安定的運営 =  
→ 物価上昇率低 → 実質金利低いながらも正の方向 → 金融抑圧低

2) 日本、韓国、台湾での政策金融

情報の問題、規模の経済、外部性による市場の失敗 ← 政策金融が補正される効果

3) 政府の介入が有効であった理由

- ・ 政治的圧力、賄賂では、比較的独立して
- ・ 市場保全的な政策遂行能力



\* アジア通貨危機の教訓

- ① 洗練されたマクロ経済政策
- ② ショックに強い経済構造

#### 第6節 むすび

- ・ 全体的な視点が必要（金融以外の経済的、法的、政治的）
- ・ 政府の役割：
  - ① 市場調整的な政策の設計
  - ② マクロ運用方法の検討